| 知識 | /48 | 合計 |
|---|---|---|
| 思考 | /52 | /100 |

## 文法・重要語の確認

**1** 知 次の語の読みを、送り仮名も含めて現代仮名遣いで答えよ。〈各4点〉

(1) 馬の頭（五五・3）　(2) 大御酒（五五・13）

(1)
(2)

**2** 知 次の傍線部の語の活用の種類を答えよ。〈各5点〉

(1) 経て（五五・4）　(2) あらじ（五六・6）

(1)
(2)

**3** 知 次の空欄に入るように傍線部の意味を答えよ。〈各6点〉

(1) 狩りはねむごろにもせで、（五五・4）
訳 鷹狩りは［　　］、

(2) 散ればこそいとど桜はめでたけれ（五五・10）
訳 散るからこそ［　　］桜はすばらしいのだ。

**4** 知 次の傍線部の「なむ」と文法的に同じものを、後から一つずつ選べ。〈各5点〉

(1) 酔ひて入り給ひなむとす。（五六・8）
(2) 山の端逃げて入れずもあらなむ（五六・10）

ア 「ただ今も渡り給はなむ。」と待ち聞こえ給へど、
イ その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。
ウ なほ世の中心憂し、尼になりなむ。
エ をかしく、まことにめづらかになむ。

(1)
(2)

## 文脈を理解する

**1** 知 「ゐて」（五五・3）を漢字で書くとどうなるか。最も適当なものを、次から選べ。〈4点〉

ア 入て　イ 居て　ウ 率て
エ 射て　オ 鋳て

**2** 思 「やまと歌にかかれりけり」（五五・5）とは、どういうことか。説明せよ。〈5点〉

### 第二段落

**7** 思 「返しえし給はず」（五六・4）とあるが、それはなぜか。説明せよ。入試 宮城教育大・改〈5点〉

**8** * 思 「一年にひとたび来ます君」（五六・6）とは、誰のことか。最も適当なものを、次から選べ。入試 甲南女子大・改〈4点〉

ア 紀有常　イ 惟喬の親王
ウ 織姫（織女星）　エ 彦星（牽牛星）





### 第一段落

**3** 知 「上中下」（五五・7）とは、何の上中下か。最も適当なものを、次から選べ。入試 甲南女子大・改〈4点〉

ア 場所の高地・中程・低地　イ 身分の上位・中位・下位
ウ 和歌の上手・中程・下手　エ 和歌の上句・中句・下句

**4** * 思 「世の中に…」（五五・8）の歌には「…せば…まし」という反実仮想の表現が用いられている。では、実際はどうであるというのか。説明せよ。〈6点〉

**5** 思 「憂き世に何か久しかるべき」（五五・10）から読み取れる内容として最も適当なものを、次から選べ。〈5点〉

ア つらい人生が今後も長くつづくのは嫌だという厭世観。
イ 浮かれた世がいつまでもつづくはずがないという諦念。
ウ 男女の仲は悩みが絶えずに長つづきしないという皮肉。
エ 現世では永遠にありつづけるものはないという無常観。

**6** 思 「大御酒参る」（五五・13）を現代語訳せよ。〈5点〉

### 第三段落

**9** 思 「飽かなくに…」（五六・10）の歌に込められている心情として適当なものを、次から二つ選べ。〈完答6点〉

ア 月を見ながらの宴会には飽きてしまったという心情。
イ 呼んでも奥から出てこない惟喬の親王を案ずる心情。
ウ 奥に入ろうとする惟喬の親王を引き留めたい心情。
エ 今にも山に沈んでしまいそうな月を惜しむ心情。
オ なかなか出てこない月を待ち遠しく思う心情。

**10** 思 「おしなべて…」（五六・12）の歌について、

(1) 「おしなべて峰も平らになりななむ」を現代語訳せよ。〈5点〉

(2) そのように言うのはなぜか。説明せよ。〈5点〉

## 主題を考える

**11** 思 本文で中心的に描かれている内容として最も適当なものを、次から選べ。〈6点〉

ア 惟喬の親王への男たちの敬愛と風雅な交わり。
イ 渚の院周辺の美しい桜や川、月への賛美。
ウ 惟喬の親王を取りまく歌人たちの酒宴。
エ 和歌と酒との間にある風流な結びつき。